

算数科学習指導案

指導者 岩渕きよ美

1. 日 時 平成21年12月9日(水) 第5限

2. 場 所 1・2年教室

3. 学 年 1年生 男子2名 女子3名 計5名)
2年生 男子3名 計3名) 計8名

第2学年

4. 単元名 「ちがいをみて」

5. 単元目標

違いに着目して、 求大・求小の逆思考の問題を解くことができる。

〔数学的な考え方〕 2つの数量があつて、一方の数量が多いということは、他方の数量が少ないことであるというよう、逆に考えることができる。

〔表現・処理〕 2つの数量の違いを比べやすいように、左側をそろえて2本のテープ図に表すことができる。

6. 指導にあたって

本単元は、加減の逆思考を扱った文章問題の単元である。場面そのものは減少であるのに答えは加法であるというように、場面を逆に考えて解決を図らなければならない問題である。この段階の児童にとっては、具体的な事象の中から数量の関係を把握していくことが大切であるので、指導にあたっては、絵や線分図(テープ図)を用いて数量の関係を把握させ、思考を助けていくようにする。

2年生は真面目に課題に対して初めのうちは張り切って取り組もうとする。しかし、最後まで、落ち着いて学習に取り組めなかったり、集中が続かなかったりすることがある。計算などは得意であるが、問題文をじっくり読み、場面理解や数量関係を把握する力は弱い。1年生から、問題文をじっくり読みイメージし、絵や図にかき表し、具体物を操作しながら学習を進めてきた。また、ノートや発表ボードなどに考え方などもかくようにしているが自分の思いを言葉で表現するのが苦手な児童が多い。そこで、1学期から友だちの発表の中で、良い表現の仕方などを使うことをねらって意図的に誉めるようにしてきた。以後、参考になっている子どもがでてきた。

簡単な学習メニューにそって形式的に進めていけるようになってきている。しかし、自分たちの発表を順にこなしていることがほとんどである。自分の発表はするが、友だちの

発表をしっかりと聞けないでいることが多い。友だちの考え方の類似点や相違点などに気づくようにアドバイスを続けているが、聞き逃していることがある。そのため、まだまだ自分たちでの学習ができていないのが実態である。早く子どもたちで進めていけるような支援をしていきたい。本校の研究主題「生き生きと学び、みんなとともに成長し合う子をめざして～思考力・表現力を 高めるために～」である。具体物を使った操作活動を通して、自分の考えをまとめ、発表し合うことからそれらの力がつくと考えている。

本時では、「どんな計算になるのかな」を受けて、求小の逆思考の問題を扱うが児童にとっては、問題文について十分話し合い、その関係を確実に捉えられるようにすることが大切である。問題文の中から、解決に必要な要素を取り出し、分かっている数はいくつで、違いはいくつ、どちらが小さいかなどをはっきり理解できるようにしたい。

これまでの単元で線分図（テープ図）を使って学習してきている。しかし、今回は問題自体逆に考えるもので児童にとっては抵抗の強いものである。そのため、線分図より量が捉えやすいように、幅のあるテープ図を使って指導を進めていきたい。線分図は、具体的な物や絵とは違って問題の中の要素を線分に置き換えるので、抽象化を行うことになる。これは、児童にとっては難しいことと考えられる。そこで、問題の関係を視覚的に捉える方法として線分図（テープ図）を活用する。問題文に即して、紙テープを切り、数量を入れていくことによって、大小関係を視覚的に捉えることができる。また、2本のテープ図では、左端をそろえて並べ、数量を比較することを確認することも大切である。支援が必要な児童には、白組を主語にして考えるとどのような分になるかを考えさせていくようにする。

7. 単元の指導計画・評価（全2時間）

次	時	目標	学習活動	評価規準
1	1 本 時	・ 2 段のテープ図について理解し、2つの数量の違いに着目して問題を解くことができる。 (求小)	・ 問題場面をとらえる。 ・ 考え方を発表し、求小の問題で逆に考える解き方をまとめる。	・ 数量の違いに目をつけ、2 段のテープ図に表すことができる。(表) ・ 2つの数量の違いに着目して求め方を考える。(考)
	2	・ 数量の関係を 2 段のテープ図に表し、2つの数量の違いに着目して問題を解くことができる。(求大)	・ 問題場面をとらえる。 ・ 考え方を発表し、求大の問題で逆に考える解き方をまとめる。	・ 数量の違いに目をつけ、2 段のテープ図に表すことができる。(表) ・ 2つの数量の違いに着目して求め方を考える。(考)